

日本災害医療

ロジスティック研修



E班 チーム・ガチポン

派遣先 県立釜石病院

病床数：272床

病院職員：約350名 災害拠点病院

被災状況：本館246床 耐震診断で震度6以上で倒壊危険あり、放射線科・OP室使用不可
増築棟26床、外来棟、管理棟は使用可能
160人の避難搬送が必要

ライフライン

上下水道：使用不可 貯水タンク使用可

トイレ使用不可

電気：使用不可 非常用電源使用

ガス：都市ガス使用不可

中央配管：安全確認とれず、酸素ボンベ使用

固定電話：防災電話着信不安定

携帯電話：使用不可

衛星携帯：イリジウム 不通に近い状態



1.ロジスティクスの基礎

①派遣目的地までの円滑な到達

釜石へ向かう4班で合同会議

経路確認

ラジオで情報収集

EMISで情報収集した

現地の方から情報収集

地図を見ながら経路確認



②衣食住の確保

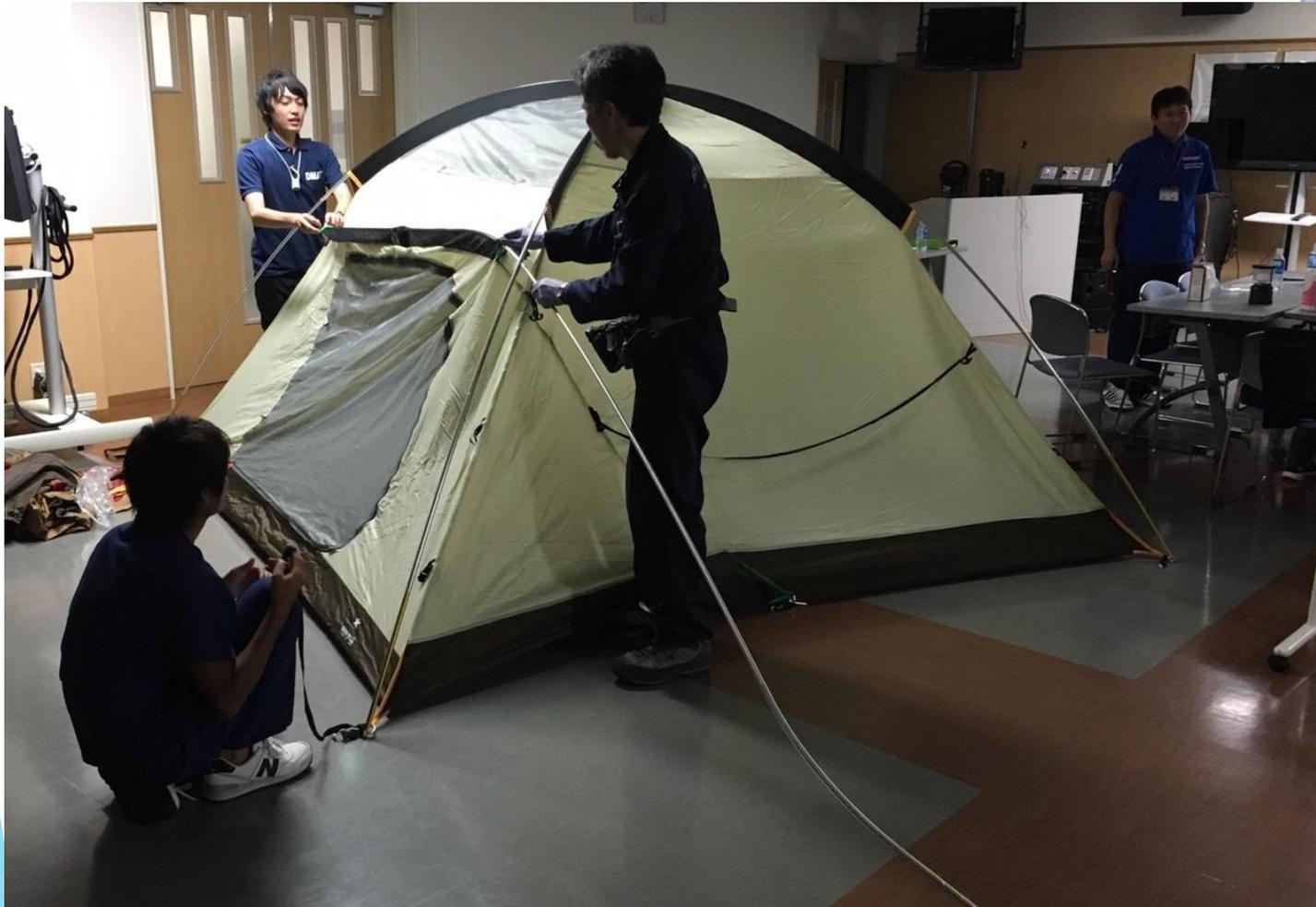
イケメン男子Cooking♪♪
缶詰、スープなど使用し
味の工夫をしました

改めて「食」のありがたさに感謝。



濱田 管理栄養士による調理指導
「イケメンに作ってもらって感激です♪」

患者の休息場所もままならない状況で、
自分達の活動場所確保が難しかった。
安全で安心な休息場所の確保
野営による危険性（熊出没注意報）



トイレ問題



使用中

災害訓練中

日本災害医療ロジスティクス研修

神戸医科大学
災害時地域医療支援教育センター



How to use

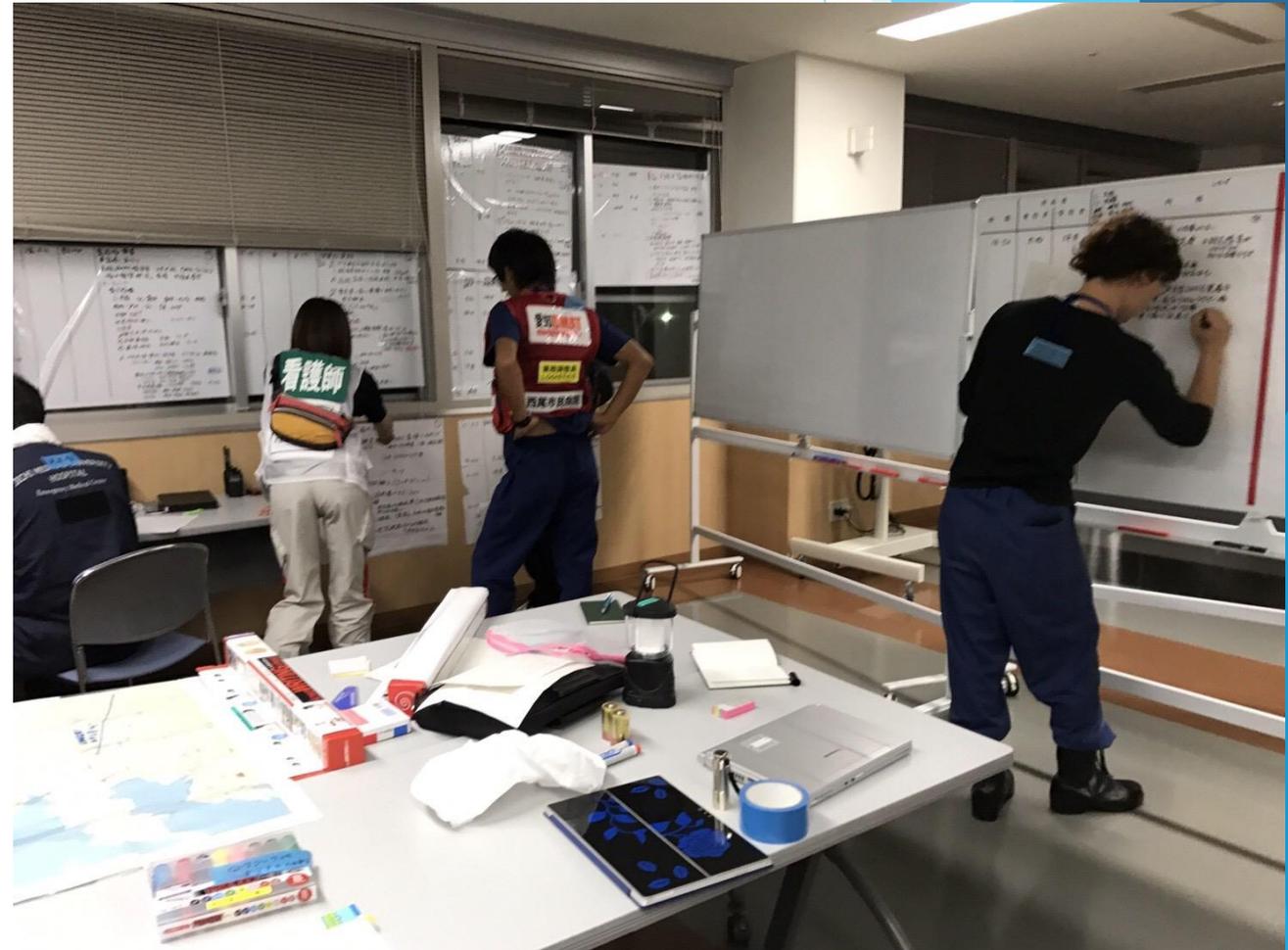
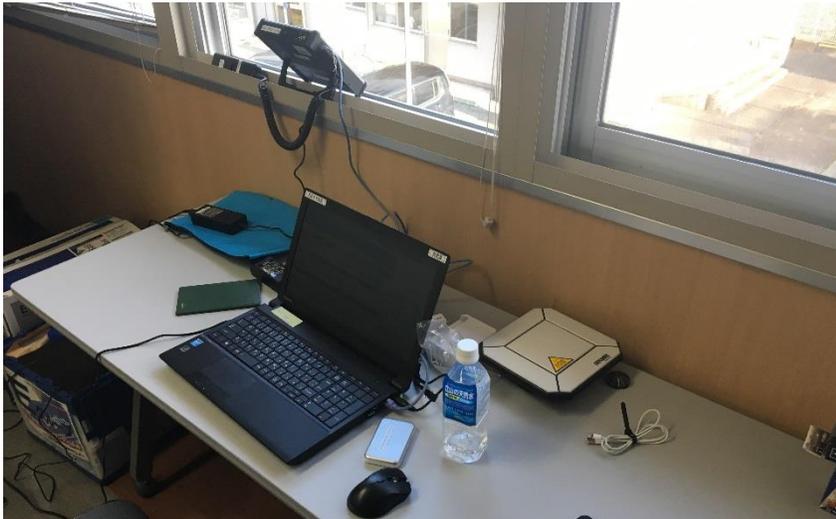
2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

①拠点でのカウンターパートとのコミュニケーション

担当者を明確にし、窓口を一本化した。同時進行でクロノロを記載して、その場ですぐに当事者と内容確認を実施できた。

②情報伝達手段の構築および通信訓練

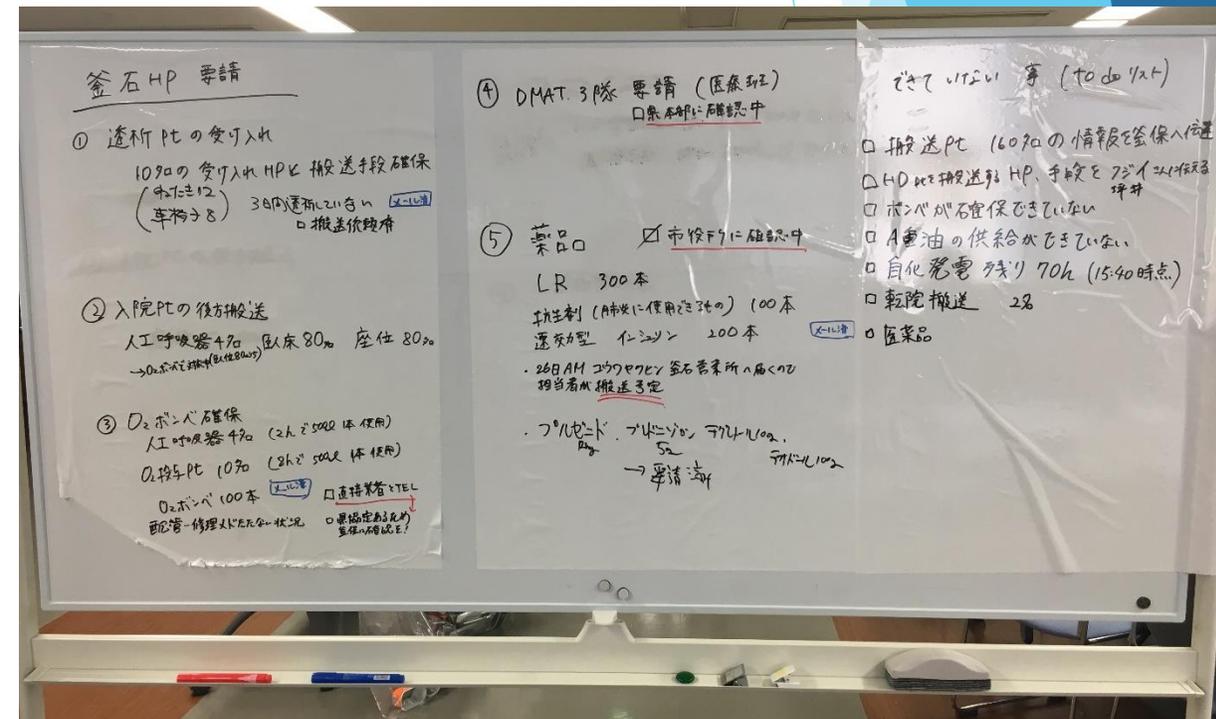
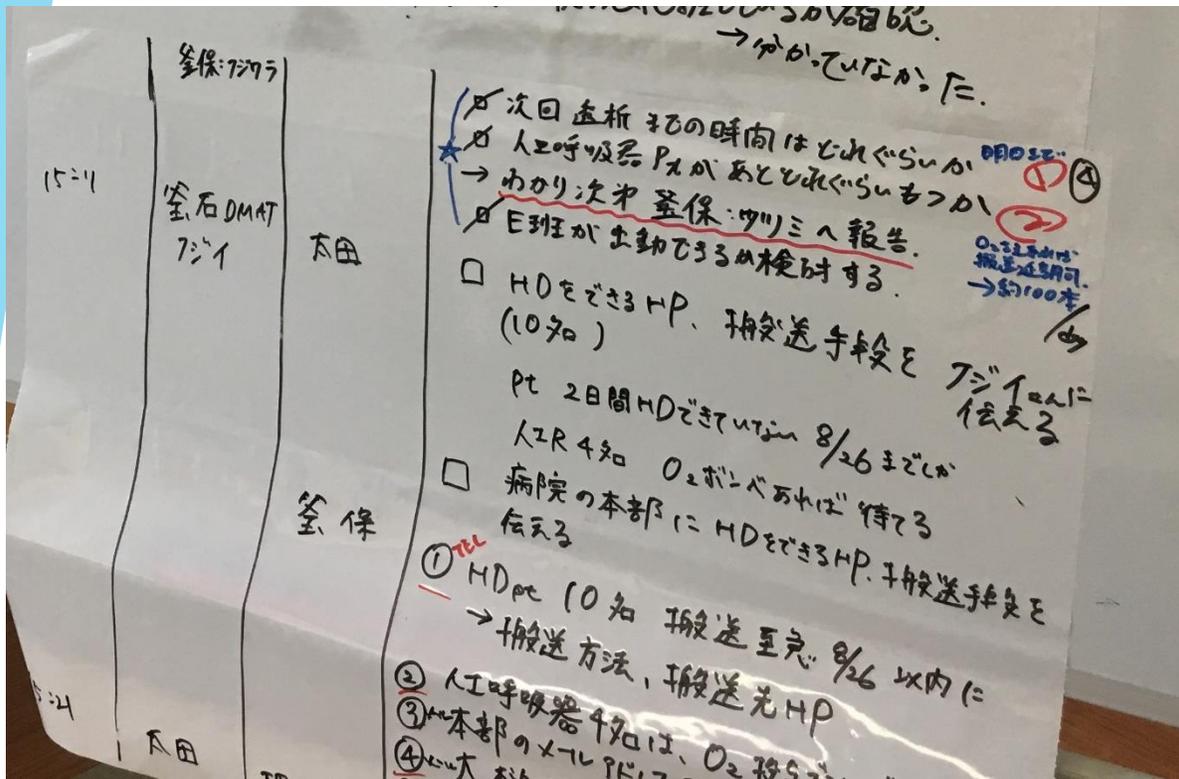
釜石HPから他の医療班との通信手段の方法は衛星電話を使用した。無線の使用範囲を確認しても良かった。
衛星電話を音声通話用と通信用とに分けた。



2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

③情報の集約と活用

情報収集をする際にポイントとしたのは、災害拠点病院の役割を果たすために、病院としての方針を決め、地域の病院の状況も確認した。多種多様なニーズの把握し、ToDoリストやチェックボックスを作成し、対応状況を明確化した。



3.多職種間の連携

①各組織特有の手法などについて

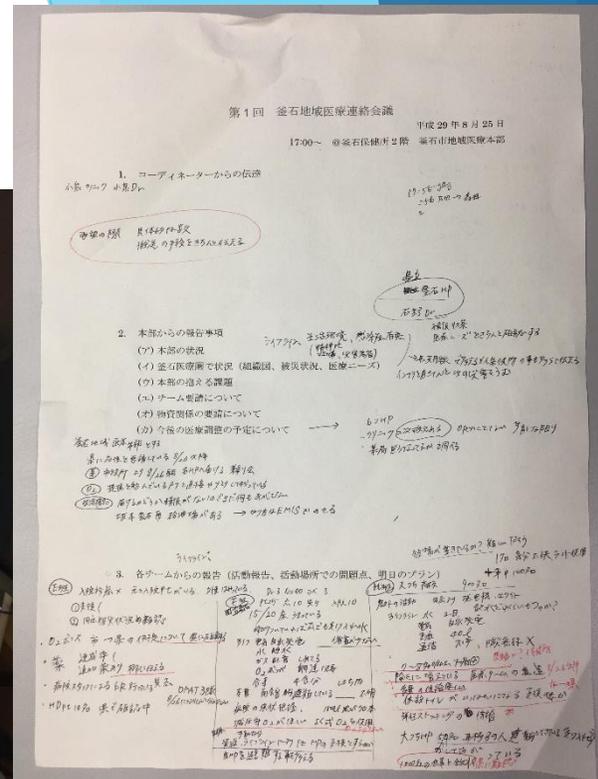
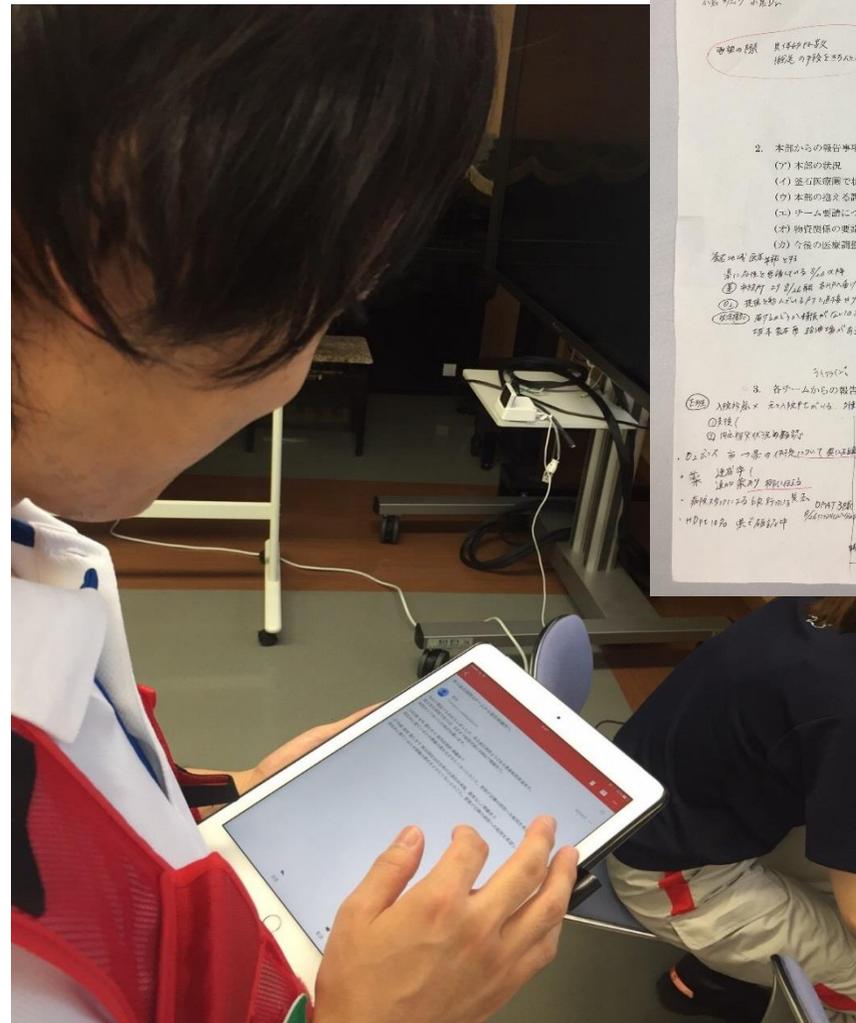
詳細情報に関しては本部とのメールを活用

②多組織間の協働方法の検討

定時報告時間の取り決め

定例会議の実施

会議の前に報告内容の把握とまとめ



感想

- ▶ 役割分担とレイアウトをしっかりと考えるほうがよかった
クロナロと通信とリーダーの位置関係が重要と感じた。
チームの休息場所などを被災者との距離の配慮。
- ▶ 寝るときのゾーニングはよかった。
- ▶ 衛星電話を使えるようになった。
- ▶ 聞いた内容をリーダー以外にもクロナロにも周知できた。
- ▶ ロジスティックスを実際に経験することができた。
- ▶ 緊迫した環境の中でも、息抜き・休憩を取ることが大切。
自分自身の水分補給は大切。
睡眠時間の確保。
- ▶ 連携力の面で、周りへの気遣いが大切。

